

コミュニケーション能力育成を目指す外国語教育 I —— 韓国における公立小学校英語教育の現状と課題 ——^{*1}

金 森 強^{*2}

Teaching Foreign Language for Communication I — Elementary School English Classes in Korea —^{*1}

Tsuyoshi Kanamori^{*2}

0. はじめに

韓国では、1997年度から初等教育3年次において正式教科として「英語」が導入された。「世界化」の動向と国をあげての国際競争力の育成のために、貿易取引や情報などの意志疎通手段としての英語によるコミュニケーション能力育成を重視した結果である。翌1998年度には3年生と4年生における英語教育の実施が決定されている。小林¹ (1996) において、導入までの過程や教育課程に関する詳細が述べられている。実際にその目標とする学習が効果的に行なわれているのかどうか興味のある所である。2003年には日本においても、公立小学校において「国際理解教育・外国語学習」として、その導入が計画されているが、そのための準備は充分であるとは言えない。

この論では、「世界化」を目指す韓国における初等学校の英語教育の姿を釜山市西部教育庁及び3つの小学校の視察訪問による調査およびアンケートの結果からその実態に触れ、その成果と課題を考察していくものである。韓国における先例が、日本における公立小学校の外国語教育実施においての有益なデータとなることは間違いないと思われる。教師養成・教授法・教材・カリキュラム等、日本でもその実施に伴ない同様の問題をかかえることになると考えられるからである。「コミュニケーション能力育成を目指す外国語教育Ⅱ」においては、韓国における成果と課題を教育課程審議会が出された中間まとめ²の内容とを検討するこ

とを含め、外国語教育改善のために今後なされるべき準備、或は、あるべき方向性を明確にしておくことになる。

1. 1 釜山西部地区における初等教育（英語） の現状

教育長・金鳳吉氏及びに学務局長・沈宗榮氏によると、現在この地域には49の初等学校があり、その全てにおいて3年生が週2時間の英語の授業を受けている。1997年から道德の時間が2時間減らされているがその時間が、英語に配当されたのではなく、「道德」は、一つの教科として学ぶものではなく、全ての授業あるいは学校生活を通して身に付けるものであるという考えからの削減であり、本年度からの英語の実施とは関係はないという説明であった。49の学校のうち3校には、英語学習専用の語学教室があり、コンピューターや視聴覚教材を有効に使用した授業が実施されている。

日本のALTにあたる外国人教師もいるが、一つの学校で指導にあたる期間は短く、いっしょに過ごすことによる直接体験交流、あるいは、発音のモデルとしての役割が大きい。アメリカ、カナダの発音が目標とされており、この地域からの外国人教師の採用が多い。外国人教師の選抜試験は中央で行なわれており、派遣された時点で研修を通して、韓国の文化・風習・伝統等の理解を促し、同時に、服装や振舞いなど教室において好まし

^{*1} Received September 21, 1996 ^{*2} 長崎ウエスレヤン短期大学助教授 Nagasaki Wesleyan Junior College, Isahaya, Nagasaki, Japan 854-0081

くない事をしないようにも指導される。

評価については、児童の興味・関心・コミュニケーションを取ろうとする態度の育成を第一に考え、成績を付ける場合において、これらの項目に留意しながら、一人一人の児童に教師が記述をして評価を行なうことになっている。3年生の全ての教科の成績が同様に点数・数値ではなく記述式で付けられていることから考えると当然ではあるが、次年度以降の評価方法がどのようなものかには興味がある。特筆すべき点として、全ての3年生の児童は、英語塾に通うことを禁止されているということがある。ただでさえ子供への教育熱が異常な状態にある韓国において、英語教育導入がその勢いに拍車をかけることを防ぐのも一つの狙いではあるが、英語教育の目標や方向性を私塾の活動により歪められることへの懸念もあるようである。但し、開始から4カ月しか経っていない現在において、既に違法な英語塾が存在しているのも事実である。

以下に、視察する事のできた3つの初等学校の英語教育の現況及びに担当教師たちの「英語」に関する考えを各学校ごとにまとめてみることにする。

2. 1 大新初等学校

授業を15分位見せて頂き、担当教師との会談を持った。この学校では、担任教師が英語を指導しており、コンピューター（二人に一台）を利用しながら、数の指導のためのビンゴゲームを行っていた。TPR (Total Physical Response) に基本を置いた指導法であり、教師の発話にキーボード/マウスを使い反応することで表現させる活動であった。児童の答えをカメラを使って正面のスクリーンに映し出し、児童の興味・関心を高めていたところも印象深い点である。ハングル語の使用が目立ち教師による英語の使用はあまり見られなかった。「大学を卒業した教師が英会話はできませんとは言えない。小学生の英語ぐらい指導できなければ、能力的に劣る教師だと見なされる。又、そのクラスの児童のことを一番知っている担任こそが、指導して当然である」と言うのが先生

たちの意見であった。初等学校の英語は難しくないで十分に指導可能であり、研修も充分であると答えていた。英語の発音に関してはコミュニケーションを取れるのであれば良いのだから、韓国アクセントの発音でも問題はないという考えを持っている。西洋文化が英語と供に入ってくることについては、マスメディア等を通して与えられる影響の方が大きいので、英語教育が西洋文化・思想を浸透させるものであるとは考えていない。公教育だからこそ、西洋ばかりでなく、アジアや自国の事について英語で学んでもよいのではないかと聞いてみたが、英語を学ぶのであるから英語圏の文化が紹介されて当然であるという考えが強かった。

2. 2 落東初等学校

専科の教師による指導がなされ、コンピューターを使ったTPRによる活動の後、チャンツによる発音練習、ジェスチャーのある英語の歌を取り入れ、教室に楽しい雰囲気を作られていた。児童の活動も活発で、教師は自然に英語を用い、意図的に多くの英語のインプットを与えており、十分に計画された授業であることがよく分かった。

発音に関しては、イントネーション・リズムは大切だが、厳密に正確な発音をめざす必要はなく、児童は、視聴覚教材等のネイティブスピーカーの発音を聞く機会が充分あるのだから、韓国人教師の真似をするはずはなく、韓国アクセントでも大きな問題ではないと考えている。

教授法についても専門用語を使って話ができる先生であり、教授法についての研究をしていることが伺える。研修だけではなく、個人的に研究会等に参加して学んでいる部分が多く、留学経験はないが、英語の運用能力も高い。オリジナルな教材も多くあり、見せて頂いた市販の教材等の研究もできているようであった。来年度の指導内容についての質問をしたが、今のところ全くの白紙であり、教科書が出されてから準備に入ることである。本年度は、3年生9クラス（週2時間）だが、来年度は4年生と3年生を担当するこ

とになるのかもしれない。今のところ、別の専科教員が増えるのかどうか知らされていないが、これ以上のクラスの指導は難しいと言う。3年－6年が英語を始めた場合、専科教員の数が増えることになるのだろうか。一つの学校に英語の専科教員が2－3人も存在するという教員の配置に問題はないのであろうか。英語は担任が指導すべきか、専科教員が指導すべきかの問題が生じてくることは必至である。「担任教師は、児童一人一人のことを良く理解しているのかもしれないが、少なくとも、英語能力、授業運びや教具の利用法などにおいては専科教員の方に分がある。担任教師が専科の持つ資質を兼ねあわせて持つことが最も望ましい形であるかもしれない。但し、そのための研修あるいは養成機関における指導内容の充実が必要と成ってくる。」というのがこの教師の意見であった。

2. 3 甘川初等学校

残念ながら授業を見る事はできなかったが、校長・教頭・担当教諭を交えて、話を聞くことができた。この学校では、担任がコンピューターが設置されている英語専用の教室で授業を指導しているが、担当教諭としてはネイティブスピーカーとのティームティーチングが望ましいと考えており。その理由として、アメリカ人の様な発音を身につけるためにはネイティブの発音に多く触れることが望ましいからであるとしていた。専科教員ではなく、担任が研修をうけ、その指導にあたるべきであるという考えであった。西欧文化の良い点を積極的に受け入れることは悪いことではないという立場から、英語の文化が入ることは問題ではないという。個人的に研修会等に参加し指導法について研究をしており、外国語学習には語いの習得が重要であるとし、語い数を増やす活動に力を入れているようである。ピクチャーカードやフラッシュカードにすばやく反応して答える形態を中心とした単なる暗記活動に陥っているようであった。コミュニケーション活動の機会を持ったり、単語より大きい単位のチャンクあるいは文単位としてのインプットをゲーム形態のリスニング活動とし

て増やしてはどうかと勧めたが、単語を知らなければコミュニケーションは成り立たないから、まずは単語をたくさん覚えさせることであるという考えが強かった。コミュニケーション能力について、校長は別の考えを持っているように見受けられたが、はっきりとは言及はしなかった。授業にゲームや歌等も取り入れ、英語学習への心理的バリアを低くする努力はなされていたが、今後、暗記中心の学習形態が続くと、児童の能力差が生じ、英語嫌いの児童がでてくるのではないかと心配である。実際、既に能力の差が出てきており、その差は塾に通っている児童と通っていない児童における差であると話していた。又、学校の復習や予習のために塾が存在することに関しては好ましくはないが、仕方がないとしていた。英語専用教室には、視聴覚教材が多く購入されており、オリジナルな教材も作られていた。実際に授業が見られなかったのが非常に残念である。

3. 考 察

今回の調査で視察できたのは、英語教室のある3つの学校だけであったが、この調査から、日本で小学校に英語教育を導入する際に考えられる課題として以下のようにまとめることができる。

1. 教員：十分な指導力を持つ教師養成の必要性養成・研修機関の必要性
(英語運用能力及びに指導法等)
非常勤講師等の指導者の確保
2. コンピューター等の情報機器を用いた指導教材開発及びに情報教育を含めた指導法の確立
英語だけの領域に捕らわれずに、総合科目とした場合にも対応できるような教材作成
3. コミュニケーション能力を育てる英語教育の指導
知識としてではなく体験を通した学習形態
児童の興味・関心にあう、コミュニケーションの素地を育てるための教材・教授法の開発。特に、音声指導 (Rece-

ption level) における指導法・教材の
確立

4. 小学校における英語教育の具体的な目標

国際理解教育の一環としての英語教育
の目標は何か。教材内容の検討（国際
理解教育の内容として適切か）

言語・文化の相対性の認識を深め
るための教材選択

5. 評価法の確立

英語に対する苦手意識あるいは英語嫌
いを作らない為にはどのような評価が
ふさわしいのか。

6. 学年・中学校との連携

各学年、あるいは中学校とのカリキュ
ラムにおける連携を考える

4. まとめ

韓国では、第一段階として漢字、英語、コンピュー
タの中から校長裁量で選択して行なう「特別活動」
としての英語学習が行なわれた。15年あまりの歳
月をかけて、ゆっくりと進めて来たのである。95
%の初等学校で英語を選択した結果、次の段階で
正式教科とした。その経緯、現在韓国が抱える問
題あるいはその成果等、我々が参考にできる点は
多い。今回視察できなかった、他の46校において
は、どのような授業が行なわれているのであり
か。3校同様に様々な違いがあるのだろうか。今
後、この違いがどのような結果を生み出すのかを
調べる必要がある。指導者としては、担任か、そ
れとも専科教員が好ましいのか。或は、他の選択
があるのか。大変興味のあるところである。AL
Tが指導に参加している場合としていない場合
においてどのような授業内容になるのか。どのよ
うな教授法で行なわれているのか。コンピューター
の使える英語教室がある学校とない学校では、そ
の能力に差がでるのか。3年から4年へと、カリ
キュラムはスムーズに行くのかどうか。³ 教師養
成機関における研修内容にはどのような変化が生
じて来るのか。今後の韓国の動向から目を離せない。
特に、教科書の中に取り上げられている題材・
文化紹介等その構成について分析を行ない、その

特徴を報告したいと考えている。

父母、教師に対して初等学校における英語教育
／日本における英語の初等教育における導入に関
するアンケート調査を行なった。以下にその結果
を示し（資料1）、この論を終わらせる事にする。
最後に、この調査にあたって釜山大学教授 李春
期氏及び長崎ウエスレヤン短期大学助教授 張張
昌氏に貴重な時間と労力をお使い頂いた。お二人
のご協力に心から感謝の意を表したい。

資料1

韓国初等学校における英語教育に関するアンケ
ート（1997年8月釜山市西域地区において実施）

被験者：父母 32人 教師 10人

1. 英語の指導をすることで、自国の文化や伝
統の大切さが失われる可能性があると思う。

父母 は い 3 いいえ 29

教師 は い 3 いいえ 7

2. 英語の力よりもハングル語や他の教科の勉
強の方が大切である。

父母 は い 8 いいえ 24

教師 は い 5 いいえ 5

3. 初等学校においては、だれが英語の指導者
として適していると思いますか。

父母 A L T 7

韓国人英語教師 10

A L Tと担任 4

A L Tと韓国人英語教師 10

その他 1

教師 A L T 0

韓国人英語教師 3

A L Tと担任 2

A L Tと韓国人英語教師 5

その他 0

4. 英語の発音について、

父母 母語話者のようになることが望ま
しい 7

韓国のアクセントがあっても会話
できる範囲なら良い 20

英語はいろいろな国の人が使う言
語であるから韓国アクセントの発

	音で良い	5
教師	母語話者のようになることが望ましい	3
	韓国のアクセントがあっても会話できる範囲なら良い	7
	英語はいろいろな国の人が使う言語であるから韓国アクセントの発音で良い	0

5. 教科書の内容として一番望ましいのは、

父母	外国の文化や習慣を含む	6
	韓国の歴史、文化、習慣を含む	22
	国際的な問題（平和、人権、差別等）を含む	3
	その他	1
教師	外国の文化や習慣を含む	5
	韓国の歴史、文化、習慣を含む	3
	国際的な問題（平和、人権、差別等）を含む	2
	その他	0

6. 英語の能力の中でどの能力が一番大切だと思いますか。

父母	話す	24	書く	3
	聞く	4	読む	1
教師	話す	9	書く	0
	聞く	1	読む	0

7. 英語は何の為に必要だと思いますか。

父母	自分の意見を世界に伝えるため	6
	世界の情報を正確に得るため	22
	進学（テスト）のため	1
	就職に有利になるから	1
	その他	2
教師	自分の意見を世界に伝えるため	0
	世界の情報を正確に得るため	10
	進学（テスト）のため	0
	就職に有利になるから	0
	その他	0

8. 学校以外でも英語を習ったほうが良いと思いますか。

父母	はい	12	いいえ	20
----	----	----	-----	----

教師	はい	4	いいえ	6
----	----	---	-----	---

9. 8. で「はい」と答えた人は何故ですか。

父母	学校の成績があがるから	2
	学校の授業では不十分だから	8
	学校よりも塾等の方が質が良いから	0
	その他	2

教師	学校の成績があがるから	0
	学校の授業では不十分だから	2
	学校よりも塾等の方が質が良いから	0
	その他	2

10. 8. で「いいえ」と答えた人は何故ですか。

父母	英語よりも大切なことが他にあるから	5
	学校の英語で十分だから	11
	学習塾等は偏った内容だから	2
	その他	2

教師	英語よりも大切なことが他にあるから	0
	学校の英語で十分だから	6
	学習塾等は偏った内容だから	0
	その他	0

11. 英語を指導しながら感じる問題点は何ですか。

教師	自分の英語力が不十分である	6
	指導教材や指導法が不十分	3
	児童のコミュニケーション能力が伸びているのか不安である	0
	児童の自由な時間が減っていないか不安	0
	他教科の能力が落ちていないか不安	0
	その他	1

日本でも小学校から英語教育を始めようとする動きがありますが、その際、どのような点に気を付ければよいでしょうか。アドバイスをお願いします。

1. 小学校では担任の先生と児童との結び付きが強いので担任が英語を教える方が望ましい。

父母 賛成 16 反対 16

教師 賛成 7 反対 3

2. 英語よりも母語の方が大切である。母語の成績が悪くなるなら英語はやめたほうが良い。

父母 賛成 15 反対 17

教師 賛成 2 反対 8

3. 西欧の文化ばかりを美化するような内容になってはならない。

父母 賛成 30 反対 2

教師 賛成 10 反対 0

4. A L Tよりも担任の先生が中心になって授業をするべきである。

父母 賛成 11 反対 21

教師 賛成 6 反対 4

5. 塾では学校の予習や復習をしてほしい。

父母 賛成 25 反対 7

教師 賛成 5 反対 5

6. 英語能力だけを伸ばすのではなく、世界の平和や人権問題等の知識を得たり、考えたりする機会を与える。

父母 賛成 28 反対 4

教師 賛成 8 反対 2

7. 塾では学校と違った内容を行なう。

父母 賛成 8 反対 24

教師 賛成 1 反対 9

8. 英語の力はすぐにつくものではない。今後の学習のための基礎力がつけばよい。

父母 賛成 22 反対 10

教師 賛成 10 反対 0

9. ある地域だけで英語を教えて、他の地域で教えないのは平等ではない。全国で一斉に際めるべきである。

父母 賛成 32 反対 0

教師 賛成 7 反対 3

10. 小学校における英語教育について考えることをお書き下さい。

楽しく英語を習うようにする。

能力別に習わせる。

塾と学校で教え方が違ったら、混乱してしまう。

塾と学校が連携をしてやる。

正確な発音を教えるべきである。

歴史や民族意識を教えるべきである。

世界に遅れない人材育成が必要。

自文化への誇りがあってこそ、外国語の学習ができる。

専科教員を増やして欲しい。

註

1. 小林(1996)、金(1996) 参照。

2. 教育課程審議会中間まとめ 1997年11月17日

3. Chongによると、テキスト作成において担当者達は十分な時間が与えられずに困難な状態にあると言う。テキスト作成に専念できるような条件整備の必要性を説いている。

参考資料

金相僕(1996) 「韓国の小学校英語教育の現況概要」釜山 佐山小学校

小林宏行(1996) 「韓国における小学校英語教育導入について」(『現代英語教育』2月号、東京、研究社出版 pp. 36-38)

樋口 忠彦(1997) 「小学校からの外国語教育」研究社出版

松川禮子(1997) 「小学校に英語がやって来た！」

Chong Dong Su (1997) Dilemmas and

Alternatives in English

Education in Korean Elementary School

日本大学英語教育学会 九州・沖縄支部第13回研究大会 発表要旨